

環境問題研究会 ソニーシティの省エネ施設見学会

2006年10月に完成したソニーの新本社ビル（ソニーシティ）は、ソニーがモノづくりの中で培った最先端の技術とノウハウを結集し、様々な省エネや環境配慮を実施した結果、CO₂の排出量が平均的なビルに比べて約48%（約1万 Co₂-ton/年）削減されており、グリーンITアワード2008「経済産業大臣賞」など、様々な賞を受賞している。11月10日に、その内容について説明を伺い、省エネ施設を見学した。

建物の概要

ほぼサッカーグラウンドの広さに匹敵する幅70m、奥行き100mの地下2階、地上20階のビル（延床面積約16万平米）。

省エネの特徴

- ・空調の熱源として、隣接する「東京都芝浦水再生センター」の処理水（約6万 m³/日）を利用
- ・二重ガラス、センサー類を多様化した自動ブラインド・自動空気調節（人やパソコンなどの発熱も利用し、年間暖房日数は僅か5日）・・・など



防災対策

大地震発生時も事業継続を可能とするために免震積層ゴムを入れた構造とし、72時間分の電力が供給できるNAS電池を設置・・・など

新環境計画「Road To Zero」

ソニーは、常に環境への先進的な取り組みを実践して来ており、本社ビルの建設にもその精神が強く反映されている。また、2050年までに自らの事業活動および製品のライフサイクルを通じた「環境負荷ゼロ」を新長期的ビジョンとして掲げ、ロードマップを策定している。